

人権尊重の第一歩として

二日市中学校一年 高濱 詩音

あなたは、人の優しさを感じたことはあるだろうか。逆に、人への思いやりを持ったことはあるだろうか。

私は、今年の三月、側弯症という病気が発覚した。側弯症とは、本来は正面から見ると真っ直ぐに並んでいる脊椎が、ねじれて左右に曲がっている病気のことだ。私の場合、五〇度も曲がっており、学校へコルセットを付けていくまでもなかった。

私は、コルセットを学校に着用していくことを、担任の先生や養護教諭の先生方と相談した結果、クラスのみんなに伝えることになった。そして先生の口から伝えられた当日、私はみんなに側弯症について深く聞かれるだろうと思っていた。けれ

ど、全然そんなことはなくて、みんな「大丈夫？」と一言言うだけで、全くしつこくは聞いてこなかった。その静かな優しさが、私は嬉しかった。

他にも、私は体操座りは禁止されており、体育の時や全校集会の時は椅子に座ることになっていた。クラスのみんなに伝えた後の初めての体育。私が保健室で着替えている間に椅子を準備してくれていた。それだけではなく、私のクラス二組は、一組と体育が合同だが、一組のみんなには私の状況を説明してはいなかった。けれど、二組の子が椅子を準備しているところを見て何かを察したのだろうか。一組の子が、

「出来るところだけやって、やるのが難しい動きはあまり無理はしないでね。」と、優しく声をかけてくれた。これもまた、友達の思いやりの心を感じて、とても嬉しかった。

体育の授業が終わり、体操服から制服に着替えるため、再び保健室へ行った。私は毎回保健室に行く前には友達に、

「保健室で着替えるから、次の授業に遅れるかも。」と伝えている。すると、その友達は、

「分かった。じゃあ次の授業の先生に伝えておくね！」

と言ってくれる。結局次の授業に遅れたことは一度も無かったけれど、すごく嬉しかった。

人は知らず知らずのうちに周りの人に支えられ、助けられている。そしてそれは、自分自身もそうなのだ。自分自身もまた、周りの人への思いやりの気持ちをもち、相手を助けている。ほんの少しの身の回りの人への思いやりが、人権尊重に関わっているのかと思った人もいるだろう。でも、相手のことを考えること、そして互いに助け合うことは、身近な人から社会に広がることで “誰もが住みよい社会”

へ、そして“一人一人の人権が尊重される社会”へと変わっていくと私は思う。どんな身近なことでもいい。例えば、ポイ捨てされたごみを拾ったり、相手に道をゆずったり。そんなちょっとした思いやりから輪を広げていけば、あなたも人権尊重に参加したことになる。

“人権尊重の第一歩”として、身近なところから思いやりの心を持ってみてはどうだろうか。